

どんびま

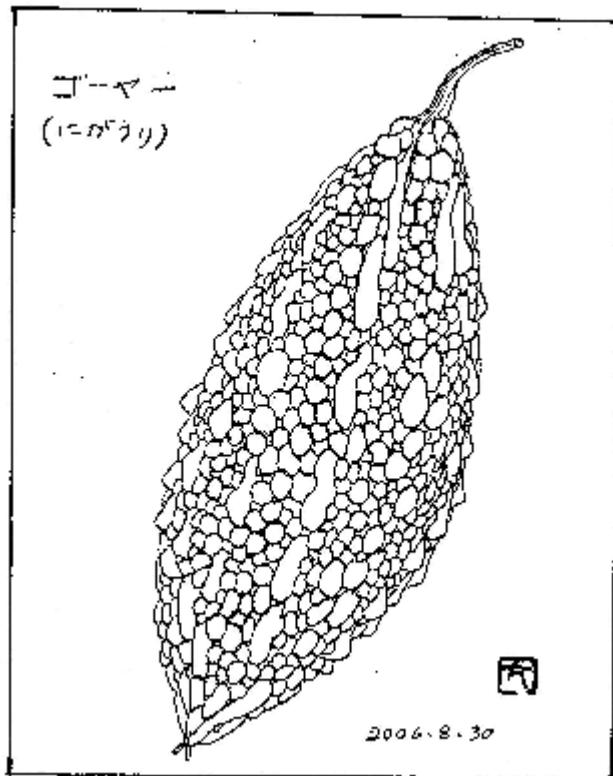
2006年9月1日発行
発行者 椈の湖農業小学校

いただきます

夏のキャンプの中で、子ども達の一番人気はやっぱり川遊びだろう。中でも、鱒つかみは楽しみの行事だ。

楽しみのあとに、必ずハラ（内臓）出しをやってもらう。もちろん夕食に食べるためである。当たり前だが日常には食品に命を感じることはまずない。ハラ出しは「命をいただく」ことを実感してほしいのだ。

食事の前に必ず言う「いただきます」には三つの意味(相手)があると思っている。
一は、食事をさせてくれる人、お父さん、お母さんに
二は、食品を採ったり、作ったりしてくれる人に
三には、命をくれる動物や野菜たちに
想いをこめて「いただきます」(草)



9月授業日のご案内

日程	9月17日(日)	持ち物	手袋、タオル、雨具、着替え
受付	8:30~9:00		食器、箸
はじめの会	9:00~9:15		買い物袋(たくさん)
授業	9:15~12:00		バケツ稲を持参してください。
(栗拾い・畑仕事)			品評会をしますので、必ずお持ち下さい。
昼食	12:00~13:00		バケツごと持ってこられない方は、刈って
授業	13:00~15:00		稲束にしてお持ち下さい。
(稲刈り・バケツ稲品評会)			栗拾いには袋を2枚以上お持ち下さい。
終りの会	15:00~15:30		栗は有料です。時価で精算して頂きます。
締め切り	9月12日(厳守)	昼食	松茸ご飯、お吸い物ほか

問い合わせ・緊急連絡

0573-75-4417・090-5110-9362 FAX75-4418 (山内總太郎)
0573-75-2109 (椈の湖自然公園管理棟) 当日のみ

流しそーめんおいしかったよ～

8月の農小授業日は、皆さんが心待ちにしているキャンプの日です。今年は天候に恵まれ雷さんもお休みしてくれました。

- * 午前の授業。じゃがいもの収穫と畑の草取りでした。残念だった事は、皆さんが折角名札を付けて植えた南瓜が全滅だった事です。さつまいもも一つ残らず猪さんのお食事になってしまいました。そこであぼ兄と總ちゃんが責任を感じて、自家用の南瓜を提供してくれました。したがって持ち帰りにはじゃがいもとかぼちゃが揃いました
- * 川遊び。11時からはお弁当をもらって川遊びに出掛けました。例年のように川上(かわうえ)川で鱒つかみや水遊びで楽しい時を過ごしました。
- * テント設営。3時にはキャンプ場にチェックインして、テントの設営や宿泊の準備を済ませ、早速夜店の用意に取り掛かりました。
- * 夜店開店。各グループ毎に趣向をこらした料理は、どれもたいへん美味しく満足そうでした。中でも豚の丸焼きは大人気で、スタッフの中には一口も有り付けなくて残念がっている人もいました。
- * カブト虫相撲の表彰。先月の相撲大会の表彰が行われました。優勝は3G 中野花菜(ユウジロウ)準優勝は4G 梶浦義斎(カブトマル)3位は1G 山瀬姉妹(レモン)それぞれに野菜が賞品として贈られました。
- * 夜の出し物。今年はキャンプ場のステージは使わずに、農小の中で行う事となりました。紙芝居・人形劇は、父兄でありスタッフでも有るケロヨン加藤さんが、自作の紙芝居と人形を使って大奮闘でした。影絵は昔から伝わる伝説を劇化したもので、「ふたりのさむらい」と云う物語で影絵サークルの作品をお借りしたもので、總ちゃん監督指示のもと、舞台裏では無言の内にテキパキと順序良くこなしてゆきました。
- * キャンプファイヤー。農小の上にある広場に移動し、点火と共に大きな炎となったファイヤーを囲み、盆踊りで馴染みの郡上節などが披露され、生徒も父兄も一緒になって踊りました。最後は各グループごとの出し物で、なぞなぞやゼスチャー、風船割りや歌などが披露され楽しみました。
- * 物作り体験。翌日は朝から物作り体験の時間で、木工と染め物に挑戦しました。自由課題の木工細工の他下駄作りには多くの希望者があり、簡単な下駄と鼻緒作りに取り組みましたが、もう少し時間があれば本格的な下駄づくりが出来たと思われます。
- * 流しそーめん。今年初めて昼食代わりに流しそーめんができました。青竹を二つに割り節を抜き水道の蛇口から水をだしながらそーめんを流します。余程の人気だったらしく私が樋に付いた頃は漬け茄子が流れていました。

～あぼ兄の百姓ばなし～

下仁田ネギものがたり

年々歳々作っている野菜の中にも好き嫌いや、思い出がある。ブロッコリー、ダイコン（あぼ兄のホラフキ大根）は以前百姓ばなしに書いたが、下仁田ネギもその1つである。

今から十数年前、旅行で日光へ行ったその帰り、高崎市から諏訪湖へ抜けるルートを通った。小さな無人販売小屋が所々にあり、車窓から目に入り気にかかったのはその片隅に置かれている黒いもの、土つきの葉の枯れた太いネギだった。観光チラシを見て分かったことだが、江戸の殿様へ献上したという有名なネギの産地下仁田村を走っていた。

家に帰ると春蒔の種子が届いていた。その中になんとその下仁田ネギの種子が入っていた。種苗店の友人が、「安保さんはナスやトマトを作るより、変わった野菜を作ったほうが似合う」と、1袋入れてくれたものだった。

毎年毎年、種子は蒔くものの収穫はほとんどなかった。自分の指によく似て、太くて短い。それでいて何だかなじめないでいた。

ある年、となりのおじさんに苗をあげた。冬になり中津川の市場へ出荷したら、なんと1kg400～500円になった。中津川の市場では下仁田ネギのはしりだった。

1本100円を目当てに、仲間三人で大量に作ったが思うようには売れない。困って名勤生協の友人に頼みこんで、特別扱いとして毎週200kgの注文を受けた。

ある時、出荷日を間違えた。さあ大変、大慌て、でも何とか時間に間に合わせた。三人の女性事務員が笑いながら迎えてくれた。荷物を待っていてくれた包装の姉さんたちも、ニコニコと間に合ったことを喜んでいてくれた。「感じのいい人たちだな。」と思ったら、そうじゃなく、袋に入れるあぼ兄の似顔絵（ケロヨン加藤作ゴム版）と見比べて、「本物の方がよい」との笑いだった。

最近、下仁田ネギの旨さが知られるようになり、今年は意気込んで15000本程定植した。12月中に売り切れなかったときは「1～2月雪の下でさらに甘味も増し、やわらかくておいしいです。」と負け惜しみコマーシャル付きになる。

農小の下仁田ネギの出来もよさそう。卒業式には楽しみです。

冬になると椈の湖の湖面にカモがやってくる。「カモがねぎを背負ってくる」と言われるが、農小の下仁田ネギはカモを呼び寄せてくれるカモしれない。

~投稿~ 「麦わら帽子」

4グループ 加藤弘之

總ちゃんは秋に坂下で歌舞伎を演じる。本番はたった数分かも知れないが、その何十倍もの時間をかけて練習をするらしい。ついでに、役に応じて自慢のヒゲもそり落とすというから、その熱の入れようはかなりのものだ。

そんな肝いりの“演出家”が、農小のキャンプの出し物「影絵」の演技指導をするのだから、遊びと言えども厳しい。影絵の練習は總ちゃん一家に小林さん、影絵を演じるスタッフ、OBの家族。それに我が家も大陸と一緒に手伝った。家で食事を済ませてから、夜8時頃ここ（影絵を上演した建物）に集まる。本番ではたった数分の上演だが、練習は何回も何回も繰り返される。

「影絵」なんて絵を適当に動かさせていれば、練習は1~2回で終わるだろうとタカを食っていたが、なんと合計3日。延べ10時間を超えた。小林さんと我が家のお母さんが照明係り。總ちゃんの指示が頻繁に飛び、明かりを点けたり消したり、ラジカセをひねったり結構な忙しさだ。眠いがあくびをする間もない。連日、大陸も眠い目を擦りながら、總ちゃんの特訓に耐えて役を練習した。

影絵の道具類は總ちゃん一家が準備した。照明装置2基。ラジカセ、絵、垂れ幕・軽トラック1台で乗り切らないボリュームだ。絵（人物）も黒いプラスチックの板をハサミで切った手作りだ。

これらの修理、運搬等準備だけでも、相当な時間を總ちゃん一家は使ったことになる。

10時間程度の練習で音をあげたら申し訳ない。たった数分の本番は、このように多くの隠れた準備や練習で成り立っている。眼に見えないところに気遣いたい。

農作物も全く同様だ。農小の畑の準備も真冬からスタートしている。安保兄の堆肥をトラックで運び、トラクターで耕す。温度が低く、堆肥の熱で畑に厩気楼のような湯気が上がる。霜柱があちこちにあるが、安保兄たちの心は、この時点で春を感じている。収穫という本番に向け、その数十倍の準備がある。安保兄が、總ちゃんが、農小の先生方が、スタッフがあちこち走り廻る。

我家も一父兄、一生徒のハズだが、たまたま我が家は中津川に住んでいる“不幸”から？農小の準備やキャンプの準備を手伝う機会がある。

キャンプの実行委員会に呼ばれ、準備の打ち合わせをしたが、スタッフの方々は皆積極的だ。

豚の丸焼きをしよう！流しそうめんもしよう！ゲタも作ろう・・・

でも、準備のことを考えると、つい二の足を踏みたくなる。

（二の足が踏めない小林さんだからゲタを作れたとい判断もできるか？・・・失礼しました！）

豚の丸焼き機械を借りに行かにはや。そうめんを流す竹を切りにいかにはや。

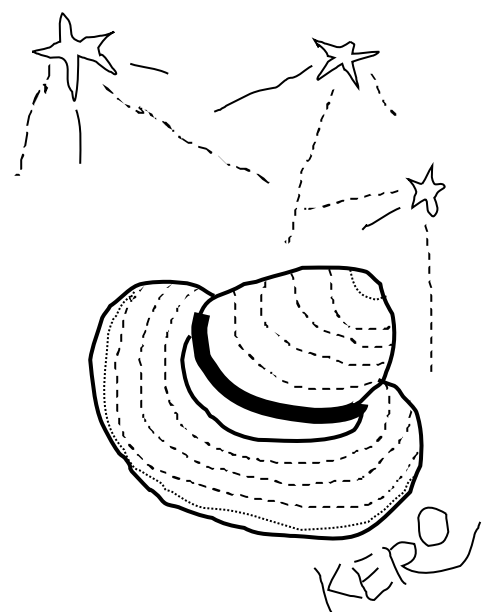
スタッフから否定的な意見は出ない。その姿勢は清々しい。誰も口に出さないが「全ては子供たちのため」という気持からちだろう。

多くのことが体験できる農小の子供たちは幸せだ。

キャンプが終わり、昼食の流しそうめんが好評で、もう茹でる麺さえなくなった頃。ようやく、安保兄や總ちゃん夫婦らが、ハシを持ち流しそうめんの竹にハシを入れた時には、そこには水しか流れていなかった。

前日の影絵の練習が遅くなり、そのまま“練習場所”に前泊した時。外の農機具を洗う水場で「水風呂」を浴びていると、豚の丸焼き機の近くに、月明かりに照らされて麦わら帽子が転がっていた。

スタッフか先生方が機械を運んで来た時、忘れて行ったものだろう。汗を吹き吹き、炎天下でキャンプの準備をする関係者の姿が、この麦わら帽子から伝わってきた。



イラストはオートシェイプ（フリーハンド）で作成